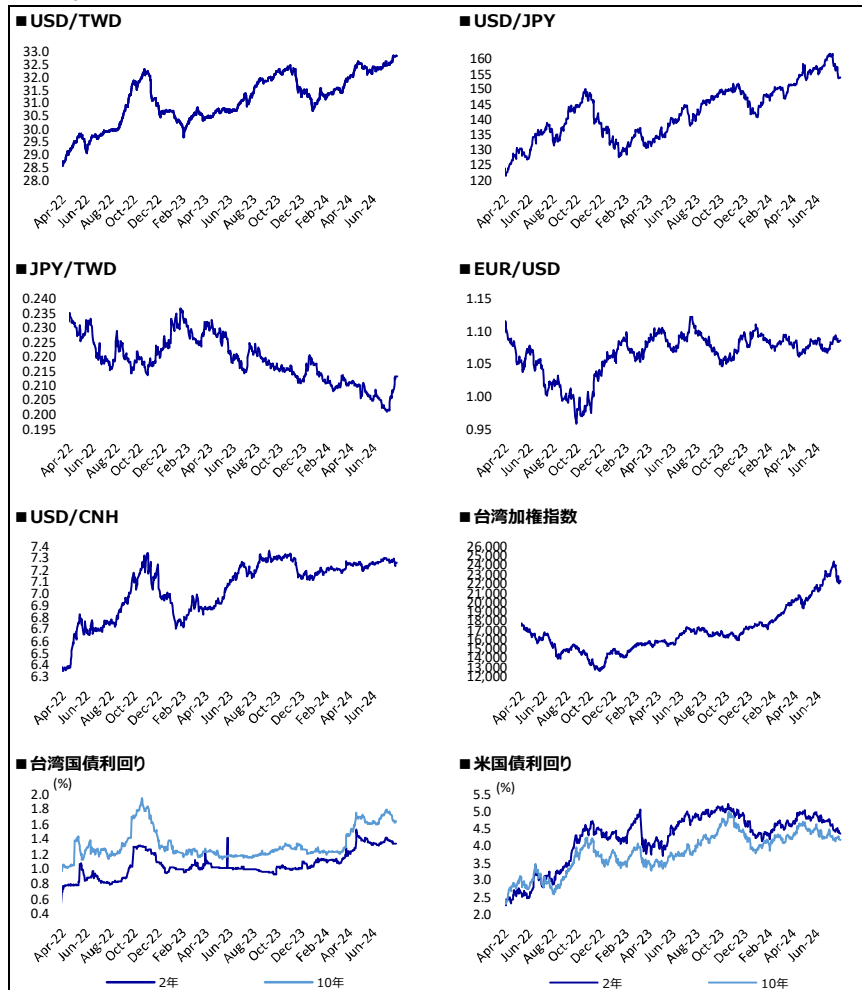


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初7/22は32.730でオープン後、米大統領選を控え現職大統領であるバイデン氏の撤退が表明されたことを受けて、不確実性が高まる中、台湾株が一段と下落。リスクセンチメントの悪化を受けて台湾ドル売りが優勢な展開となり、一時32.880まで上昇した。7/23は、台湾株の下落が一服していたことを受けて台湾ドルがわずかに買い戻され、32.80台前半で揉み合いの推移。7/24、並びに7/25は、台風休暇で台湾休場。7/26は、台風休暇中に米金利が低下していたことや、円高が加速していたことを背景にドル売りが進み、一時32.761まで下落。しかしその後、米半導体株の下落の影響で台湾株も急落する中、外国人投資家による台湾株売りが見られ、32.80台前半まで上昇。最終的には前週比0.3%ドル高台湾ドル安の32.831で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は792.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初7/22は157.35でオープン後、翌週央に日銀金融政策決定会合を控え、円金利が上昇していたことを背景に、円買いが優勢な展開となり、156円台半ばまで下落。7/23は、自民党の茂木幹事長より金融政策正常化について「着実に政策を進める方針を明確に打ち出すことが必要だ」との発言が聞かれたことを受けて、円買いが進み155円台半ばまで下落。7/24は、米ハイテク関連銘柄の第2四半期決算が市場予想対比弱い結果となっていたことを受けて、株価が急落していた他、前ニューヨーク連銀総裁のダドリー氏より、昨今の軟調な経済指標を受けて「FOMCは利下げすべき」との見解が示されたことを背景に、ドル売りが進み153円台前半まで下落。7/25は、日本株の下落を受けてリスクセンチメントが一段と悪化する中、円買いが進み一時151.95まで下落。その後、発表された米第2四半期GDPが市場予想を上回る堅調な結果となったことを受けて、ドルが買い戻され153円台後半まで上昇。7/26は、海外時間に発表された米6月PCEの伸びが前月比で弱い結果となったことを受けて、米金利が低下。ドル売りが優勢な展開となり153円半ばまで下落した。最終的には前週比2.4%ドル安円高の153.79で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.700-33.000
今週は揉み合いの推移を見込む。米金利の低下はドル売り圧力となるものの、グローバルな半導体株の下落によるリスクセンチメントの悪化が続く場合、台湾ドル売り圧力も残存しやすく、売り買い交錯となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：151.50-154.50
今週は上値の重い推移を見込む。週央に日米中銀会合を控えるが、日銀は金融引き締めに向かう一方、米国が金融緩和へと舵を切る展開となる場合、金利差の縮小から円買いが進みやすいであろう。

今週の予定

7/29 (MON)	
7/30 (TUE)	日6月失業率、米7月カンファレンスボード消費者信頼感指数
7/31 (WED)	日銀金融政策決定会合、台湾第2四半期GDP、FOMC
8/1 (THU)	台湾7月PMI景況感指数、米7月ISM製造業景況感指数
8/2 (FRI)	米7月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。